

びわこ文化公園植物だより〔β版〕

アカメガシワ トウダイグサ科

・学名 *Mallotus japonicus*

・園内に自生、花期は6～7月



📍 アカメガシワが見られる場所は文の最後！

梅雨時の晴天時に森林の樹上から虫の羽音が聞こえてくることがあります。足元には黄色い小さなボンボンのような花が落ちています。アカメガシワです。

頭上の花は観察しにくいですが、落ちた花を見ると雄しべが球状に集まった様子が観察されます。花弁が目立つ花を付けなくても多くの虫たちを集めるのは、日当たりの良い林縁や林冠の上部で一度に大量に咲くからかも知れません。



アカメガシワはトウダイグサ科アカメガシワ属に分類される熱帯性の植物です。アカメガシワ属は日本では 3 種類が自生していますが、アカメガシワ以外の 2 種は亜熱帯性気候の琉球に自生しており、本州にあるのはアカメガシワのみです。その意味では珍しい植物ですが、日当たりの良い林縁部には非常に多く見られる先駆植物です。

アカメガシワはコナラのような鱗片に覆われた芽ではなく、葉の若い状態を剥き出しにしたような裸の芽を付け、次々に新しい葉を出していきます。新しい葉は赤く目立ちます。またカシワのような大きな葉を付けることから、アカメガシワと名付けられました。一般に植物の新葉を観察すると、緑の光合成色素であるクロロフィルが合成されて葉身に定着するまでは、先に合成されたカロチノイド系の赤い色素が目立つものがあります。アカメガシワの赤はひときわ目立つように思います。葉の表面の短毛が絨毯のような質感を出し、赤さ

を際立たせているように感じます。



アカメガシワにはアリとの関係という興味深い話題もありますが、それはまた別の機会にしましょう。夏の暑さの中で元気に花を咲かせているアカメガシワ。びわこ文化公園の中でも林縁部でよく見られますから、小高い丘に登って観察してみたいかがでしょうか？

(龍谷大学先端理工学部 横田岳人)

- ❁ アカメガシワはあちこちに生えていますが、たとえば [ここ](#) で見られます
(Google マップにリンク。10m程度の誤差が出る場合があります)